

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科
科目名称 [英語名称]	観察実習(事前事後指導含む)幼 [Observing in Pre-school/school (including Guidance Before and After)]			実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	750107	授業形態	実習	単位数	1	配当学年	2年次
教員氏名	藤本 朋美/金子 幸			学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP1(2) DP2(1) DP2(2) DP2(3) DP3(1) DP3(2) DP3(3) DP3(4)		
授業概要	<p>観察実習(幼)は、実際に幼稚園を訪問し観察を通して、一人一人の子ども、教師と子どものかかわり、子ども相互の関係、教師の援助のあり方等について理解を深めることを目的としています。</p> <p>観察実習は、保幼ブೀクの学生において、必要な基礎的実務経験の修得をめざす第一段階の実習として位置づけられます。具体的には、幼稚園を訪問し、それぞれ所属の現場教諭指導者のもと、子ども達の姿を観察することによって、幼児について理解を深めるとともに、幼稚園現場への理解を深めます。【汎用性能力の育成】【態度・志向性の育成】</p> <p>観察実習前には、事前指導を行います。観察実習の意義や実習内容、保育参観の仕方や園児の観察の仕方、記録の取り方について学習します。また必要な準備物、参加心得などについても確認します。【知識・技能の育成】</p> <p>実習後には、事後指導を行います。観察実習で得た知見をもとに、保育・幼児教育の基礎的・基本的事項の重要性について考え、今後の教育実習に向けての学習の方向性を焦点化します。【汎用性能力の育成】【態度・志向性の育成】</p>						
関連する科目	履修後に「保育実習」「教育実習(幼)」を受講することが望ましい。						
授業の進め方と方法	<p>事前指導は、講義および演習形式の授業を行います。実習の心構えや身だしなみ、マナーを確認し、実習日誌の書き方を学びます。</p> <p>観察実習は、3日間、実際に幼稚園を訪問して実施します。毎日、観察した内容を実習日誌に記載し、考察を行います。</p> <p>事後指導は、グループディスカッション等にて実習の学びを深めるとともに、自らの学びや考えをレポートにて表現します。</p>						
授業計画	<p><事前指導></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習に向けての心構え 「実習の手引き」をもとに実習の流れや実習生としての心構えを確認します。 2. 身だしなみ 身だしなみの整え方と正面写真の取り方について学びます。 3. 好感と信頼をあたえる接遇マナー 接遇の基本をはじめ、信頼が得られる仕事の進め方について学びます。 4. 実習日誌の書き方① 観察実習のねらいと内容を確認し、実習日誌を書くための観察の視点を学びます。 5. 実習日誌の書き方② サンプル教材をもとに作成した実習日誌を確認し、観察や記録の方法を学びます。 6. 実習直前確認 実習日誌事前記入事項や、身だしなみ、準備物について最終確認を行います。 <p><観察実習></p> <p>配属された幼稚園において3日間の観察実習を行います。 実習期間中に教員が巡回して指導します。</p> <p><事後指導></p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 保育・幼児教育の営みについて考える ①実習における学びの共有 8. 保育・幼児教育の営みについて考える ②保育の営みを記録する 観察実習を振り返り、自身の学びを確認します。それぞれの学びを共有することで、自身の課題について考えます。 						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 観察実習に参加する際の心構えほか、実習日誌の記録方法を習得することができる。【知識・技能の育成】 2. 子どもに対する理解を深めることができる。【汎用的技能の育成】【態度・志向性の育成】 3. 幼稚園教諭の仕事の内容と役割を理解することができる。【汎用的技能の育成】【態度・志向性の育成】 4. 保育実習・幼稚園教育実習に向けた自身の課題を把握することができる。【態度・志向性の育成】 						
授業時間外の学修	<p>観察実習に向けて、次の事項に積極的に取り組んでください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発達段階について自主学習に取り組む。 2. 観察実習に向けて、実習園について情報収集を行う。 3. 実習日誌の記録や自身の保育技術向上のため、課外授業や自主学習に取り組む。 <p>実習後には、観察実習および事後指導での学びを振り返り、自身の課題を明確にします。自身の課題の克服のためにどのような取り組みが必要かを考え、保育実習・教育実習にむけて実行してください。</p>						
課題に対するフィードバック	実習日誌、レポートは評価後、返却し解説をします。	評価方法			学習への意欲的な取り組み 40点 ※原則として授業への遅刻・欠席、提出物の未提出(期限厳守)は認めません。 実習日誌 30点、レポート 30点		
テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省(2017)フレーベル館、(240円+税)「実習の手引き」南九州大学						
参考書	必要に応じて図書、資料を紹介します。						
備考							

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科	
科目名称 [英語名称]	観察実習(事前事後指導含む)小 [Observing in Pre-school/school (including Guidance Before and After)]			実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	750107	授業形態	実習	単位数	1	配当学年	2年次
教員氏名	宮内 孝/趙 雪梅			学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP1(2) DP2(1) DP3(1)		
授業概要	観察実習は、3日間という短期間ではあるが、実際に小学校に行き様々な授業や児童の様子を観察するものである。この観察実習を経て、3年次の教育実習Ⅰでは、3週間という期間、教壇に立って授業を行うことも含めて、じっくりと学校教育を体験することとなる。そのため、2年次の観察実習では、受講生は、実際に教壇に立って授業を行う機会はないものの、学校教育全体、特に学習指導(授業)実践の具体的な在り方を観察し、教育実践者としての力量形成をしていくための準備をするものである。学習指導(授業)実践を具に観察し、それを単なる印象に終わらせることなく、出来る限り構造的に把握できる観察力の形成を目指すこととする。						
関連する科目	教育実習Ⅰを次年度に履修すること。						
授業の進め方と方法	毎回の授業にて、アクティブラーニング型授業を展開する。1回の授業の基本的な構成は下記の通りである：【前半】講義形式で進め、各回全般的事項に係る「知識・理解」の獲得を図る。【後半】各回の中心的事項に関して、グループディスカッションや課題解決・探求学習(個人もしくは集団)等を通して学修を深化させるとともに、自らの考えをレポートやプレゼン等にて表現させる。						
授業計画	<p>【観察実習事前指導】 第1回：オリエンテーション (配属先・大学担当教員発表、「教育実習生等調査票」の説明、宿泊者説明等) 第2回：事前指導(1) (「教育実習生等調査票」評価・解説、観察実習に向けての心構え、実習校への電話の掛け方等) 第3回：事前指導(2) (身だしなみ、証明写真の撮り方、好感を与える接遇マナー) 第4回：事前指導(3) (観察の仕方、記録の取り方①) 第5回：事前指導(4) (観察の仕方、記録の取り方②)</p> <p>【観察実習】 第1日目：校長講話「学校で求められる人材」、授業参観 第2日目：授業参観、諸教育活動の観察(朝の活動、昼休み、帰りの会等の全活動) 第3日目：授業参観、諸教育活動の観察(朝の活動、昼休み、帰りの会等の全活動)</p> <p>【観察実習事後指導】 第1回：事後指導(1) (実習の振り返り、御礼状の作成等) 第2回：事後指導(2) (実習グループでの事例研究) 第3回：事後指導(3) (人間発達学部子ども学び研究所の先生方との懇談会)</p>						
授業の到達目標	(1) 児童の一日の生活の流れを観察することで、小学校教育の流れを理解する。 (2) 教育実践、特に学習指導(授業)実践を構造的に把握する。 (3) 児童一人ひとりを生かす学習指導(授業)実践の成立に向けて、必要不可欠な条件は何かを把握する。 (4) 児童の実態に即して学習指導(授業)を展開させていく教師の創意工夫を把握する。 (5) 教科指導に限らず、道徳、特別活動、生徒指導、学級経営等についても観察し、具体的な姿を把握する。 (6) 観察実習日誌の作成を通して、自分が学んだこと・気付いたことを整理する態度を身につける。						
授業時間外の学修	[復習]授業で学んだ内容を振り返り、要点を整理すること(1時間)、また授業終了時に示す課題に取り組み、必要な資料作成を行ったり、授業中に解説した事柄に関して習熟し、実践出来るようになっておくこと(2.5時間) [学び合い]教育実習報告会を参加し、教育実習を終えた学生から体験および成果や課題を聞き、次年度の教育実習に対する見通しを持ち、自らの実習に必要な知識やスキルを身につけること(2時間)						
課題に対するフィードバック	実習前に必要となる提出課題は、各実習校担当教員を通して個別に評価・解説を行う。実習後の提出課題は、評価後、返却及び解説を行う。			評価方法	(事前事後指導)出席時のミニレポートや提出物、課題の取り組みや受講態から評価する(各回10点×7回=70点) (観察実習)観察実習日誌の記述及びレポート提出から評価する(30点)		
テキスト	特に用いない。毎回講義内容に応じた資料を作成し、配布する。						
参考書	「小学校教育実習ガイド」(2015、萌文書林) 「教育実習ハンドブック」(2015、学文社) 「教育実習安心ハンドブック」(2018、学事出版)						
備考							